

福島県飯舘村（国内 28 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 8 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 発生農場は山間に位置し、周囲は森林に囲まれていたほか、休耕地が存在した。
- ② 当該農場周辺には複数のため池が存在したが、調査時、野鳥は観察されなかった。
- ③ 当該農場は 2 階建てのウインドウレス鶏舎 1 棟からなり、鶏舎内部は壁を隔てて左右 2 つの区画に分かれており、各区画に背中合わせの直立 4 段ケージ 2 列が設置されていた。鶏舎の入口は 1 か所であり、飼養管理時は区画間の壁に設置された扉を通じて行き来していた。発生時は両区画で採卵鶏の育成を行っていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、通常 1 日当たりの死亡鶏は、各区画 10 羽程度であったとのこと。鶏舎入口側にある発生区画（通報時 74 日齢）の 12 月 2～4 日の死亡羽数は 32～40 羽であり、12 月 5 日に 95 羽が死亡し、翌日も死亡が継続していたことから（死亡羽数約 100 羽）、家畜保健衛生所に通報したとのこと。この際、採餌及び飲水量に異状は認められなかったとのこと。
- ② 調査時は、発生区画の 2 階において、両壁沿いの列の複数のケージで死亡鶏の増加が認められた。1 階の死亡鶏の状況は、殺処分後だったため調査時に確認できなかったが、飼養管理者によると、2 階と同様に死亡鶏が増加し、死亡鶏は区画内全体に散在していたとのこと。
- ③ 調査時、発生区画以外の区画では異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、社員 3 名が勤務しており、うち 2 名が鶏舎内での作業を担当、1 名が堆肥作業を担当していたとのこと。
- ② 鶏舎内作業担当 2 名のうち 1 名が鶏舎内作業の専属であり、残りの 1 名は専属の 1 名が休日の際に鶏舎内での作業を行っていたとのこと。
- ③ 導入及び出荷作業については、当該従業員 2 名及び自社他農場従業員の計 5～6 名で行っていたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場の入口には、立入禁止を示す看板があった。
- ② 飼養管理者によると、従業員の車両、自社車両及び飼料運搬車が衛生管理区域に入りする際は、衛生管理区域出入口の自動車両消毒装置で消毒を行っているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員が衛生管理区域に入る際には、事務所で衛生管理区域専用作業着及び長靴を着用し、手指消毒を実施するとのこと。飼料運搬業者が衛生管理区域内に入る際の衛生管理区域専用衣服及び長靴並びに手指消毒設備の用意はなかったとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、従業員が鶏舎に入る際には、鶏舎の前室で踏込み消毒（逆性石けん、毎日交換）を実施した後、鶏舎専用長靴の着用及び手指消毒を行っていたとのこと。交差汚染対策として、踏込み消毒を実施した後、衛生管理区域専用長靴は消毒槽内で脱いでいたとのこと。鶏舎内から鶏糞集積小屋への出入り時は、鶏舎内で踏込み消毒を実施していたが、長靴の交換・手指消毒は行っていなかったとのこと。
- ⑤ 鶏舎全体でオールイン・オールアウトを行っていた。最後の導入は非発生区画に 11

月 10 日であった。

- ⑥ オールアウト後は鶏舎内の清掃と消毒を行い、空舎期間は 1 か月程度設けていたとのこと。
- ⑦ 鶏舎後面の換気扇により排気し、鶏舎天井部から給気する強制換気を行っていた。鶏舎モニター部分の吸気口には金網とロールカーテンが設置されていた。鶏舎天井部には開閉式の給気口が設置されており、自動で開閉する構造となっていた。
- ⑧ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌する構造となっていた。
- ⑨ 飼養鶏への給与水には、井戸水を使用していたとのこと。消毒は行っていなかったが、ポンプで汲み上げた水は各鶏舎内へラインを通じて給水され、給水経路に開放部はなかった。
- ⑩ 鶏糞は、毎日、鶏舎内の除糞ベルトで回収され、鶏糞搬送小屋を通り堆肥舎へベルトラインで搬出されるとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、死亡鶏は毎朝の飼養管理時などに回収し、鶏舎内の容器に入れて運び、農場内の堆肥処理施設で堆肥に混入していたとのこと。
- ⑫ 管理獣医師が月に 1 回程度訪問し、鶏舎内のウイルス検査などを実施していたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内及び農場周辺で野鳥・野生動物はほとんど見かけないとのこと。農場周辺に野生動物を誘引する田畑等はなかった。
- ② 調査実施時、堆肥施設内でセキレイ 1 羽、農場周辺でネコ 1 匹を確認したが、農場周辺でそのほかの野鳥や野生動物は確認されなかった。
- ③ 飼養管理者によると、農場内でネズミを確認することはないとのこと。定期的に殺鼠剤の散布や、粘着シートを設置するが、粘着シートにネズミが捕獲されたことはないとのこと。調査時、鶏舎内にネズミの糞、ラットサインは観察されなかった。
- ④ 鶏糞搬送小屋の堆肥舎側搬出口に野生動物対策としてシャッターが設置されていたが、鶏舎内の除糞ベルト開口部分にはシャッター等は設置されていなかった。
- ⑤ 鶏糞搬送小屋に、ネズミと推測されるかじり跡や、ネズミのものと推測される糞を確認した。

(以上)